

門真四中だより

「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和4(2022)年7月15日

第26号

編集・発行：校長 上甲 尚

かけがえのない「命」を大切に



左の詩は、ある母親が15歳で亡くなった我が子(娘)に向けて書かれたものです。「ありがとう」という言葉が、たくさん書かれています。皆さんはどんな感想を持ちましたか。

皆さんは13、14、15年前にこの世に「生」を授かりました。お母さんのお腹の中で「十月十日」^{とつきとおか}すくすくと成長し、生まれてきたのです。あなたのお母さんが陣痛と闘いながら必死の思いで、命がけて産んでくれたから、今のあなたがいます。そして「こんな人になってほしい」という思いを込めて名前を付けられました。夜泣きをするあなたを寝ずにあやし、ハイハイをした、つかまり立ちした、自分の足で立って歩けるようになった、言葉を覚えた…。我が子の成長を心から喜び、愛情いっぱい育ててこられたのです。時には、叱られることもあるかもしれませんが、いさかい(言い争うこと)もあるかもしれませんが、でも、あなたが生きていてだけで、涙を流しながら喜ぶ人がいるのです。

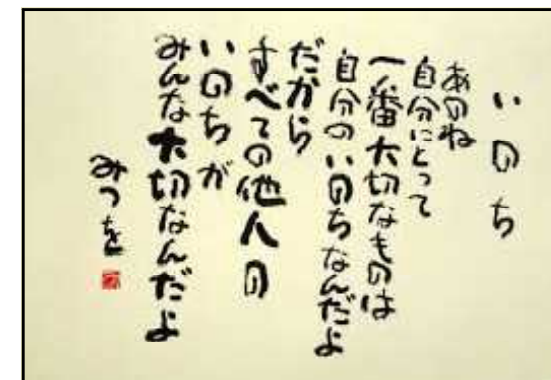
今、人の「命」をないがしろにする行為、事件が後を絶ちません。人に向かって平気で「死ね!」と言ったり、傷つけたりする人がいます。愛情いっぱい育ててくれているお母さんに反抗する人もいます。ストレスがたまっているのか、自分で自分を傷つける人もいます。なぜ、そんなことをするのでしょうか…。あなたの回りに、あなたのことを心から心配し、大切に想ってくれる人がいることに気付いてほしいのです。

言うまでもなく「命」は、たったひとつしかない、かけがえのないものです。自分の「命」も、人の「命」も大切にしてほしい。「命」を粗末に扱わないでほしい。そして、親にとって子どもの「命」は、自分の「命」よりも尊いものであるということを胸にとめておいてほしい。この世に「意味のない存在(命)」は絶対にはないのです。あなたはかけがえのない存在なのです。

話は変わりますが、私(上甲)の母は19年前、65歳で亡くなりました。持病の腎臓病が悪化し、闘病の甲斐なく、家族に看取られながら旅立ちました。臨終の時に、母に対し出てきた言葉は「ありがとう」の一言だけでした。時に反抗的で、生意気なバカ息子(私)を愛情いっぱい育ててくれたことに、感謝の言葉しかありませんでした。亡くなった後に、「もっと親孝行しておけばよかった」「もっと話を聞いてあげればよかった」「感謝の言葉をきちんと伝えればよかった」と後悔しました。今でも母の優しい笑顔、おいしい手料理の味を懐かしく思い出します…。皆さんに

は、私のような後悔はしてほしくないのです。親を悲しませるようなことは絶対にしないでほしい。心からのお願いです。

何か悩み事やしんどい事があれば、決して一人で悩まずに、誰か周りの大人(親や先生)に相談してください。私たちはあなたの悩みを真剣に受けとめ、一緒に考えます。



生まれてきてくれてありがとう
 ありがとう
 生まれてきてくれて
 ありがとう
 病気をしたとき
 いっぱいいっぱい
 心配させてくれて
 ありがとう
 多くの出逢いを
 プレゼントしてくれて
 そして楽しい思い出
 いっぱいくれて
 ありがとう
 生きる意味
 考えるチャンスを入れて
 全ての命がいとおいと
 感じさせてくれて

ありがとう
 お父さんとお母さんが
 出逢ったこと
 間違いじゃないって
 気づかせてくれて
 ありがとう
 こんな私に
 子育てさせてくれて
 あなたをこんなに
 愛させてくれて
 ありがとう
 教室の中の
 こどもたちの苦しさ悲しさ
 いっぱい教えてくれて
 ありがとう
 『やさしい心が一番大切だよ』
 の言葉を残していつてくれて
 そしてこの言葉を
 伝える人生をくれて

ありがとう
 15年と7ヶ月
 私と生きてくれて
 いつかまた逢える
 楽しみをくれて
 お母さんそれまで
 頑張って生きるよ
 ありがとう
 ありがとう
 ありがとう
 ありがとう
 言い尽くせない
 たくさんのありがとう
 でもゴメンネ
 守りきれなくて
 ありがとう
 ありがとう
 全てのこどもたちへ
 生まれてきてくれて
 ありがとう

小森美登里